

# 活力ある大和野菜の産地づくり

## 要約

- 「味間いも」は田原本町、「結崎ネブカ」は川西町の伝統野菜として、大和野菜に認定。
- 「味間いも」のブランド力向上のため、安定生産や品質向上技術の普及に取り組むとともに関係機関と連携し、新規生産者の確保に取り組んだ。
- 「結崎ネブカ」は関係機関と連携し、病害虫防除指導を行うことで、高品質、安定生産を目指すとともに、新規生産者の確保に取り組んだ。

## 現状(背景)と課題

- 「味間いも」は個別に直売所へ出荷。町のブランド品としての消費者の認知度は低い。  
【平成29年】生産者数 12 戸、栽培面積 57a
- 「味間いも」をブランド力のある特産品とするため、栽培面積の拡大、組織出荷、販路拡大が必要。
- 「結崎ネブカ」は、出荷量が減少傾向。加えて、出荷物の品質に生産者間差があり、返却品が発生。  
【平成29年】出荷量 10.3t、出荷返却率 3.2%
- 難防除害虫の防除指導や出荷調整指導により、品質向上を図り、出荷量の増加を目指す。

## 目標

- 田原本町産「味間いも」ブランド推進
  - 生産者数 20 戸
  - 選果取組生産者 10 戸
  - 栽培面積 1ha
  - 新規販路 3カ所
- 結崎ネブカの生産安定
  - 出荷量 10t
  - 出荷返却率 1.0%

## 活動内容

- 田原本町産「味間いも」ブランド推進  
指導対象：田原本町味間いも生産者の会（20 戸、90a）
  - 有利販売先開拓のため、関係機関と販売対策検討会を開催。（1 回）
  - 生産物の品質確保と新規生産者への配付のため、種芋の増殖ほの設置を支援。（1カ所）
  - 品質向上や収量増加のため、土寄せや白マルチ被覆技術の実証ほを設置。（1カ所）
- 「結崎ネブカ」の生産安定  
指導対象：JA ならけん結崎ネブカ生産部会（20 戸、1ha）
  - 作付け前に栽培講習会を開催。（1 回）
  - 病害虫防除のための薬剤ローテーション表を配布し、巡回指導を実施。（5回）
  - 2月の出荷量増加を目指し、水稲収穫後作付けにかかる実証ほを設置。（1カ所）
  - 新規生産者の確保のため、栽培講習会を開催。（1 回）

## 成果

- 田原本町産「味間いも」ブランド推進
  - 生産者数が23名に増加。栽培面積は、0.84ha。
  - 田原本町ふるさと納税の返礼品として令和3年から出荷開始予定。
  - 販路拡大に伴い出荷箱を作製し、令和2年から出荷に利用。
- 「結崎ネブカ」の生産安定
  - 令和2年産の出荷量は、7月の大雨と8月の高温の影響で3.2tに減少。市場からの返却率は0%。
  - 令和3年の新規栽培希望者を1名確保。

中部農林振興事務所農林普及課  
担当：農産物ブランド推進系  
北村、野村  
チャレンジ品目支援事業  
(大和野菜収益向上対策事業)  
首都圏での大和野菜等販路開拓  
事業



「味間いも」優良種芋生産実証圃の設置



「結崎ネブカ」栽培講習会

### 普及活動のポイント

#### 「味間いも」

- 生産者、田原本町役場、JAならけんと連携し、情報共有を図り、生産や販売方法を改善。

#### 「結崎ネブカ」

- 生産量増加のため、新規栽培者や栽培年数が浅い生産者を重点的に巡回指導。

### 対象の変化

- 「味間いも」は、種芋増殖ほを設置したことで、生産物の品質向上が期待できる。また、新たな出荷箱を作成するなど、有利販売に係る生産者の機運が高まった。
- 「結崎ネブカ」は、生産者の良品出荷への意識が高まり、出荷物の品質向上につながった。

### 対象者からのコメント

#### 「味間いも」

- 高齢化等により作付面積は、減少傾向にあるが、新規生産者も徐々に増加しており、栽培や販売改善により、「味間いも」のブランド向上を図っていききたいので、引き続き支援を願う。

#### 「結崎ネブカ」

- 出荷量増加のためには、病害虫防除対策の強化が必要。

### これからの活動ビジョン

#### ① 田原本町産「味間いも」ブランド推進

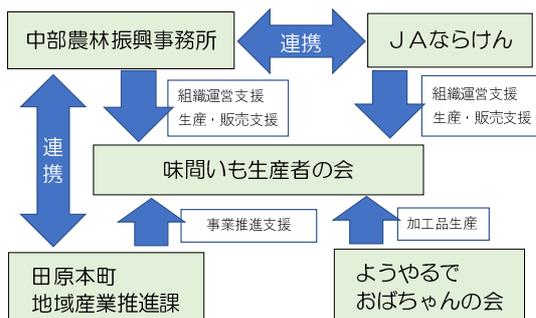
- 新たな販売先の検討を行い、生産拡大に取り組む。
- 優良種芋の選別基準を作成し、増殖圃を定着させる。関係機関の役割を明確にし、生産体制の整備を行う。

#### ② 「結崎ネブカ」の生産安定

- 長雨や高温による出荷量の低下を防ぐため、排水対策や灌水の実施について指導を徹底する。
- 水稻あと作付けを推進し、2月の出荷量を増加させる。

### 活動体制

#### ① 田原本町産「味間いも」ブランド推進



#### ② 「結崎ネブカ」の生産安定

